

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1)学校教育目標	自分で自分の行為を規制し、自己の行動に責任を持つという遵法の精神を培い(自律)、困難にめげず意欲的に新しいものに取り組み、前向きの姿勢で自ら自分の未来を切り拓き(進取)、一致協力して事にあたる(和協)人間を育成する。
(2)現状と課題	志願者数の減少が続いており、志願者数の増加のために、活性化の方向性や方策について検討・協議を進め鰯ヶ沢町との一層の連携や協力を積極的に行っている。一方で少人数であることがきめ細かな指導を可能にしていることから、生徒一人ひとりを大切にしたい授業実践による「学力向上」と、生涯学習の観点にもとづいた「自ら学ぶ生徒の育成」を課題として教育活動に取り組んでいる。
(3)重点目標	1 確かな学力育成
	2 人間性豊かな心の育成
	3 キャリア教育と進路指導の充実
	4 保護者・地域の連携及び協働
(4)結果の公表	評価項目、結果の内容等をまとめた資料を作成し、本校ホームページで資料を公開する。

学校整理番号	15
学 校 名	青森県立鰯ヶ沢高等学校
全日制 の課程	校舎 ・ 分校
自己評価実施日	令和6年1月30日(火)
学校関係者評価実施日	令和6年2月26日(月)

(9)ーイ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 7名
計7名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10)次年度への課題と改善策
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)ーア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導	①基礎学力の定着に向けて、少人数制によるきめ細かな授業を実践するとともにICTを活用した主体的な学びになるように工夫する。 ②わかる喜び、できる達成感を引き出す授業を実践し、家庭学習等を促進する指導を行う。 ③校内外の研修に積極的に参加し、教員の資質向上を図る。情報共有とOJTを推進し、魅力ある学校づくりに努める。	①数学と英語で習熟度別授業、情報や商業科目でTTを行ったほか、少人数であることを活かし、一人ひとりに寄り添った授業を行うことができた。授業等にICTを活用する先生方が増えた。 ②ICTを活用するなど各教科担当者が授業展開を工夫し、生徒の学習意欲の向上を図ることができた。 ③考査期間の午後を利用してICT機器活用能力の向上を図るための研修会や特別支援教育に関する研修会を実施したほか、研究授業を実施し、知識とスキルの向上を図ることができた。	A	・基礎学力、資格取得、学力向上、部活動及び校内外の様々な活動に積極的に参加させる指導が行われている。 ・少人数制による、個々の生徒の特性を生かした指導を実践し、わかる授業(きめ細かな指導)に取り組んでいる。	・各先生方のICT活用及び授業展開等のノウハウを共有し、さらなるICT活用を推進したい。 ・家庭学習を促進するまでには至らなかったため、個々の生徒の学力に応じた指導体制を確立する必要がある。 ・校外研修等に参加した研修報告会を定期的を実施し、情報共有を図る他、特別支援教育に対する意識向上と指導力の確立に向け校外研修に積極的に参加する。
2	生徒指導	①自他の尊重と共生社会に必要な能力の育成に努め、当たり前のことが当たり前に見える人づくりを目指す。 ②いじめの早期発見と組織的な対応を徹底し、教育相談と特別支援体制の充実に努める。 ③学校行事や生徒会活動、野外活動を通した連帯感や自己有用感の醸成と地域貢献活動を通した郷土愛の醸成を図る。	①全教職員の共通認識の下、礼法や授業態度、容儀や携帯電話の使用などについて適切な行動を促し、学習に集中できる環境づくりを行うことができた。 ②心身の健康に課題を抱えたり特別な支援を要する生徒に対し、教育相談委員会を通して共通理解を深め、保護者や関係機関と連携しながら学校生活を支えることができた。 ③生徒が主体となった生徒会活動が運営され、生徒の自主性を育むことができた。	A	・多用な生徒が在籍している中で、SCやSSWの配置の実情、保護者と連絡が取れない状況等の課題について整理して、県・町・地域・高校で出来ることを確認していったほしい。 ・地域でのボランティア活動「白神山地植樹祭」「特別養護老人ホームでの施設清掃や交流会」「ゴミ拾い」等は、生徒の「生きる力」になっている。	・学校生活での態度や服装容儀については、ほぼ問題はないが、校内での防寒着の着用や女子の夏服の着用の仕方等の改善が必要な部分がある。 ・多様な生徒・保護者を抱え、学年、養護教諭、SCだけでは対応しきれないケースもあり、教育相談委員会の早期開催や対応など、見直しを図らなければならない。
3	キャリア教育	①総合的な探究の時間を充実させ、言語活動や体験活動を生かしたキャリア教育の推進を図る。 ②3年間を見通した、計画的な進路指導を実践し、面接や小論文指導を充実させ、個に応じたきめ細かな進路指導や進路支援の体制づくりを実践する。	①1年の総合的な探究の時間において、地域について理解を深める学習(あおり創造学)に取り組み、魅力的な地域資源を継承するための課題を解決しようと挑戦する生徒を育成することができた。 ②全教員の協力のもとに進路指導を行い、3年生に関しては、充実した個別指導により学力や文章表現力が向上し、全員第一志望で合格することができた。	A	・あおり創造学の取組みは、しっかり計画されている。今後は、町内の中学校や小学校、町内在住の鰯ヶ沢高校以外の高校生とも取り組みを共有化出来ればと思う。また、鰯ヶ沢町以外の生徒にも各自のふるさとの魅力について認識を深めていくことが出来ればと思う。	・総合的な探究の時間を含め、さまざまな活動を通して、生きる力の育成を継続していく。今後も引き続き、町との連携・協力も継続していく。
4	開かれた学校づくり	①HPや各通信による学校情報の積極的な発信やメディアとの連携による情報発信を行い学校の見える化を図る。 ②町、地域団体、企業との連携事業の推進やボランティア活動等を通した教育活動を充実させ、保護者、地域が一体となった共有の推進を図る。 ③80周年記念式典を成功させる。	①学校Webページが迅速に更新されるとともに、今年新たに入学向け特設ページが追加されるなど、充実した情報発信ができた。また、多くのメディアに取り上げられ学校の魅力を発信することができた。 ②町内のゴミ拾い、ブナ植樹、福祉施設訪問など多くのボランティア活動を通じて地域貢献の精神を養うことができた。 ③各関係者と連携し、円滑に事業を進め盛大に終えることができた。	A	・地域から高校生にボランティア要請をする仕組みを作る。例えば、社協から独居老人宅の雪かきの手伝いを要請するなど地域の人から感謝され、生徒の自己肯定感や自尊感情が高まり、自信につながるはずである。 ・記念式典に参加し素晴らしい伝統とこれまでの活躍と活動に本当に良い高校だと思う。	・地元や近隣地域及びその中学生に対する広報や情報発信に一層力を入れ、鰯ヶ沢高校の魅力を伝え志願者数の増加に今後も取り組んでいく。 ・ボランティア活動等に、全校生徒が取り組むことの大切さや意義について理解させ、自主的に参加する姿勢を養う指導が必要がある。
(11)総括	少人数の利点を活かしたきめ細かな指導を全教職員で行っており、3年生については、全員の進路が決定し、その指導においても全教員による丁寧な指導を実践している。今年度も公務員希望者にはオンライン講座や公務員模試を実施し1名の合格者を出し成果をあげた。学校行事や生徒会行事は、町との連携協定に基づき、町から多くの協力をいただいている。今年度は、新しい部活動も新設され、生徒が活躍する場面が飛躍的に増えた。今後も、志願者数を増やすべく、本校の魅力を外部へ発信していき地元や近隣、全国の中学生に選ばれる学校づくりを進めていく。					